

# 豪雨を想定した

# 防災訓練実施

昨年7月12日に、村内全域に甚大な被害をもたらした豪雨災害。これまでに経験したことのない大雨は、2人の尊い命を奪いました。

災害からやがて一年。梅雨を前にした5月18日、被害が大きかった新所・立野・立野駅地区の住民346世帯（898人）を対象に豪雨を想定した防災訓練が実施されました。その内容を時系列でお伝えします。

〈訓練の目的〉 大雨時の避難は二次被害の恐れもあることから早めの避難を心がけることを周知するための訓練です。自分の命は自分で守る「自助」、周りの人と助け合う「共助」をしっかり身に付けることが必要です。

※〔 〕は想定

これから先は時系列でお伝えします

午前 8 時 30 分



訓練開始〔大雨警報発令 1時間雨量60mm 超〕



県職員や、報道機関（役場職員代役）が、村の待機状況や災害情報について役場に確認



防災行政無線で「自主避難」を呼びかける日直の役場職員



県や報道機関などの問い合わせに電話対応する役場職員

## 災害対策本部

午前 8 時 50 分



## 避難所

吉田地区住民から床下浸水の連絡が入り位置を確認する役場職員

防災行政無線の呼びかけで住民は自主避難。消防団は避難誘導・交通整理を行った。



気象庁から土砂災害警戒情報が発令され、長野村長から災害対策本部設置の指示が出された。

午前 9 時 2 分

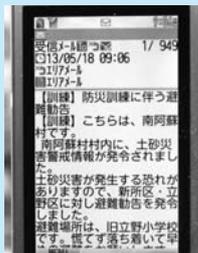


避難勧告〔土砂災害警戒情報発令〕

（旧）立野小学校避難所では、避難してきた住民の安否確認の署名が行われた



避難勧告を知らせる緊急速報メールを送信



緊急速報メール受信





村内で土砂崩れや、畦畔崩壊、3人の行方不明者などの連絡が相次いだ。



(旧)立野小学校教室に  
現地対策本部を設置



行方不明者3人の捜索のため、消防団幹部・消防署・警察署が協議し、捜索活動を開始。けがはしていたが、無事3人とも救出し、救出状況を災害対策本部に報告した。※けが人は、それぞれ症状が書かれたビブスを着用。



役場の担当者から、避難者一人一人に飲料水や非常食が配られた。



訓練終了



今回の訓練では、一部の地域で避難の呼びかけが聞こえないなど、防災行政無線戸別受信機の不調や、携帯電話会社2社の緊急速報メールが発信できないトラブルが発覚。今回の訓練を通して、問題点が確認できました。

**訓練を終えて**  
この日の訓練は午前11時に終了。訓練を終えて長野村長は、「昨年の災害では、苦情を言わず皆さん耐えていただきました」と感謝の言葉を述べ、「梅雨を前に、皆さんの不安も大きいでしょう。今後、災害が起きた場合は早めに避難して欲しい。村も全力をあげて災害復旧に取り組み、災害に強い村づくりに取り組んでいきます」とあいさつしました。



**避難所ではさまざまな体験も**  
避難所では、南部分署員が「水消火器」の使用体験や、建物火災を想定した「煙体験」、簡易担架の作り方を説明。その他、非常食や非常持ち出し品の紹介もあり、参加した地域住民は、興味深げに説明を聞いていました。水消火器の使用体験では、子どもからお年寄りまで多くの人たちが参加。「初めて使って、自信が持てた」などの声が聞かれました。



新所区長  
まるの たけお  
丸野 健雄さん

**訓練を生かす**  
今回の訓練には、ほとんどの区民に参加していただき、当然のこととはいえ、災害に対する意識の高さを再認識しました。  
この訓練を踏まえ、私たち住民は守ってもらうだけでなく、「自分たちの命は自ら守る」という意識が第一だと理解しました。  
今後、災害に見舞われても、地区から一人の死傷者も出さないために、どのように避難をするか、みんな相談していきたいと思っています。



市町村防災訓練アドバイザー  
熊本県隊友会大津町支部長  
なかしま とおる  
中嶋 理さん